



月刊 おかじょうき

<http://www.okajiki.com/>

2023

11

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 10月例句会	19
川柳吟行会「ぼ」	25
十和田たてがみ川柳会 9月句会報	29
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	18
Infomation	32～

## カンテラ

むせし

「川柳忘年会」をやるかやらないか。やるとすればいつどこでやるか、どんな形でやるか。そんな問題がいくつもあった「川柳忘年会」をやることにしました。

やると決めてから「さて会場をどこにするか」となり、青森市内のホテルや宴会場を当たったのですが、電話したところはどこもすでに押さえられていました。

そこで、総勢5人が知恵を出し合い、ついにある会場を見つけました。

小さなステージのあるスナックでした。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

## A群

秋深し本に呼ばれて酒に呼ばれて  
海風が言わしてしまうナクモンカ

葉閑女  
ひらく

## B群

広辞苑開いて閉じて難破船  
ドーナツの穴にプーチン閉じ込める  
スタートラインからマシカクな息遣い  
空をまとい海を枕にする昼寝  
返信不能 野ブドウの青紫  
二重奏あなたの後ろ深い秋  
ここにきてやっとなもった火焰土器  
空に傷みながらいつにいますのしょう  
プーチンかゼレンスキーか舐めてみる

吉見恵子  
坂本清乃  
三浦蒼鬼  
夏草ふぶき  
熊谷冬鼓  
柳本恵子  
瀧尻善英  
ひとり静  
きさらぎ彼句吾

きさらぎ彼句吾さん、大統領を二人「舐めてみる」っていい度胸ですね。「プーチン」はロシア大統領で、ウクライナを乗っ取るうとしていたりやつ。「ゼレンスキー」は、そのロシアから自国を守ろうとしているウクライナの大統領。「ゼレンスキー」はヒゲを生やしていて、「プーチン」はヒゲをきれいに剃っていて額が遠いから見えずぐ分かると思うんですが、彼句吾さんは「舐めて」本物の「プーチンかゼレンスキーか」を確認するんですね。「プーチン」には影武者が何人もいいますからそ

皿が飛ぶ白内障か妄想か

ありがとうこの温もりをラッピング

自画像の鼻のあたりで散る桜

北斗星今夜は蟋蟀と見よう

誰かわからん奴が味噌汁にいる

山の声聞きたくて山姥になる

竜胆の青だな秋を呼んだのは

辻井洋子  
村上てる  
まきこ  
吉田州花  
芝岡かんえもん  
田中薫  
守田啓子

守田啓子さん、「秋」って呼ばないと来てくれないものだったんですね。まさか「竜胆の青」が呼んでいたとは思いませんでした。「ちいさい秋みつけた」というサトウハチローの詩がありますが、この句の「秋」は、きつと啓子さんの「ちいさい秋」なんです。では、私は誰にどんな「秋」を連れてきてもらいましょうか。

れもありです。

## C群

耳朶の先のあたりの九月のムンク  
せせらぎが故障してから眠れない  
もう少し生きたくなくて毒をのむ  
バイオリンに擬態している種子鳥

奈良一艘  
宮井いずみ  
米山明日歌  
小野五郎

奈良一艘さん、「九月のムンク」ってなんですか。「ムンク」は、「叫び」という絵で有名なノルウェーの画家でしょ。「九月」は夏と秋の境目。だけど、その二つがドッキングした「九月のムンク」になると、分かりそうに分らない。その「九月のムンク」が「耳朶の先あたり」にいるって、一艘さんの耳元で誰かが何かを叫んでいるんですね。徳永英明が「9月のストレンジャー」という曲を歌っているけど関係ないよね。

宮井いずみさん、「せせらぎが故障」って大変なことになりましたね。「せせらぎ」は、広辞苑に「浅い瀬などを水が流れる音。また、その所。小川。小流。」と出て来ますが、「故障」するなんてどこにも書いてありま

せん。いつも「せせらぎ」の音の中で眠っているいずみさん、困ったでしょうね。いずみさん、「せせらぎ」は直りましたか？

米山明日歌さん、あの…、「毒」を飲んだのですか？普通の人は「毒をのむ」と具合が悪くなったり、ともすればお亡くなりになられてしまったりするのですが、「もう少し生きたくなくて毒を飲む」明日歌さんって特別な体質かもしれませんね。ところで、「もう少し」って明日歌さんだとどれ位なんでしょう。もしかしたら、30年くらいかもしれませんね。

小野五郎さん、「擬態」って、シャクトリムシが枝に似ていたり、アブがハチに似ていたりする、あれでしょ？で、「種子島」というのは鹿児島県にあって、種子島銃が伝来した島で、「種子島宇宙センター」という衛星打ち上げ基地のあるところですよ。地図を見ましたが、どこが「バイオリン」に似ているんだろうと思いました。でも、五郎さんがこう書いているんだから、ある種のニゲンには「バイオリン」に似て見えるんですよ。にしても、「島」が「楽器」に「擬態」するとは不思議不思議。

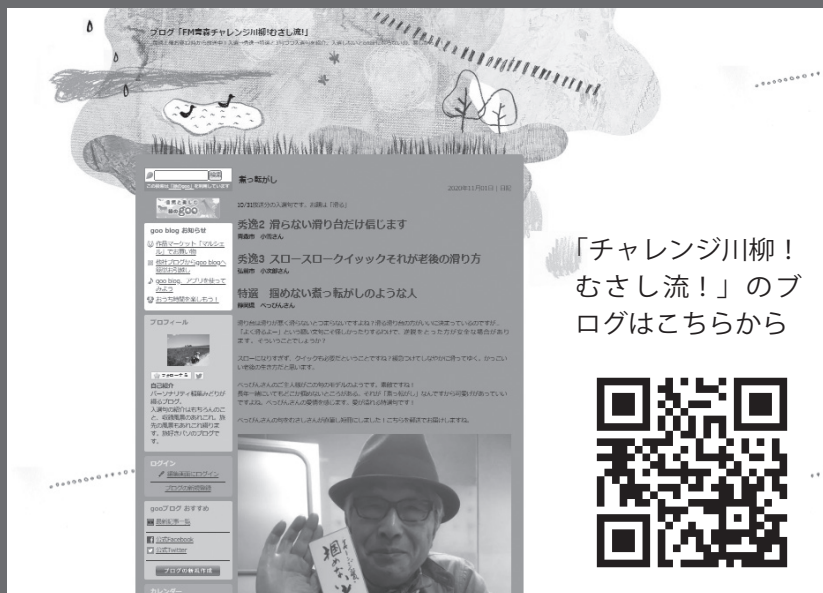
おかじょうき川柳社会員雑誌集

# 無人駅

★無人駅10月間賞

あと二杯水を飲むさびしくないように

守田啓子



「チャレンジ川柳！むさし流！」のブログはこちらから

ブログ「チャレンジ川柳むさし流！」  
2009年11月03日 18時

新→転かし

秀逸2 滑らない滑り台だけ信じます  
秀逸3 スロースロークイックそれが老後の滑り方  
特選 揺めない揺つ転かしのような人

プロフィール  
ブログの紹介  
gooブログ 好きな人  
Facebook  
Twitter  
ブログの最新記事

カンテラ

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

誰かわからん奴が味噌汁にいる  
どん底を舐めて砂金を見つけたよ  
拜啓頑固殿 蛇口ひねってくれないか  
どこからみてもやはり悪党面である  
真水だがなんだかんだといじられる

号の先月お気に入り  
真上から見て人の形をしているか 三浦蒼鬼  
真上がいいですね。この頃は人の形をしていません。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

八月の山は恐怖であたたかい  
保冷剤ぐるぐる巻いて山登る  
熱中症アラートのまま降りる山  
火照ったからだを待つてる冷泉湯  
三十五度それでも山へ登る理由

号の先月お気に入り  
応用がきかなくなった思考力 まみどり  
六十七だもの。素直に受け入れます。

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

ふりだしに戻ってピュアになりました  
裏切りの川でふわふわ浮く斬首  
ここにきてやつとハモった火焰土器  
僕の画布他人が色を塗りに来る  
追伸に陳腐なワードばかり書く

号の先月お気に入り  
決断の桃はつるりと自白する 芝岡かんえもん  
つるりと皮が剥けたときの気持ちいいこと…。自白して  
楽になったことですよ

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

一枚の壁放り投げ青の波  
溢れ出る涙全部乾いちやつてさ  
山の声聞きたくて山姥になる  
負の世界から抜け出してコンビニへ  
やつぱチャリ立ち漕ぎで坂グイグイと

号の先月お気に入り  
食欲減退畑でトマト丸かじり 坂本清乃  
ハンパない猛暑でした。も少しです

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

電話が鳴ってるのは知ってるんだ  
声の境界線超えていくミサイル  
さみだれて狂気の沙汰ほど面白いつか  
お前も神なら 襖ぎ被えよ 幸え給えよ  
ひしゃげてはいるが黒に別状はない

号の先月お気に入り  
黒ぬりの所で確か産まれたの 田久保亜蘭  
なるほど、それで…。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

肝試し何を盗みに来るつもり  
盗まれた傍聴席の妻の本  
背表紙に書かれた元カノの名前  
指先の白色元カノのルール  
二十二時赤信号の正義が光る

号の先月お気に入り  
決断の桃はつるりと自白する 芝岡かんえもん  
簡単に自分を語ることはあり得無い…絶対無い…おそらく無い  
…多分無い。思い込みであっても、強いものは強いということが。

旅男【たびお・青森県五所川原市】

天蓋破るるる八竜神のいばり  
酔いどれのいないねぶたは弾けない  
秋刀魚食べましたびんびんしています  
地球にはプラスチックな入歯痕  
右手左手根はあげず足あげよう

号の先月お気に入り  
電線は垂れ答えは行方不明 米山明日歌  
困りました、他所のことなら手を回されるのに。タンクも海も時間も生活も日  
本が重すぎる。分らんねえよ誰か助けくれようー吉田吹響もつこの状態です。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

眺めてるドラマが多くなりました。  
忘れてたピーマン主役あげましょう  
皿が飛ぶ白内障か妄想か  
ホームズの謎解き終わる湯に入る  
背を伸ばす月が近くに来るように

号の先月お気に入り  
さあどつぞこは私の獣道 まぎこ  
その道に温泉、もみやがありますか。

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

ご冥福の言葉も出ない空を見上げて  
日常を吐き出す術 雷よ虹よ  
十五年生きて下さつて感謝  
ごわごわと思ひ出辿る午前二時  
与えてもらったこと 伝え切れなかったこと

先月号のお気に入り  
黄昏を煮るか焼くかで揉めている  
焼き物より煮物が得意です。 安藤なみ

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

空をまとい海を枕にする昼寝  
潮騒のいびつな匂いに泣かされる  
透明なヒトデが漏らす世迷い言  
さざ波の人に言えない悪い癖  
海原を食べつくし泥炭になる

先月号のお気に入り  
スカスカになっても私のままでから  
なかなかスカスカにもなれませんが(笑) 吉田州花

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

空に傷みんな気づいているのでしよう  
迷わないひこうき雲はまつすぐに  
違うよと言つていそいなお月さま  
卑怯にも紫蘭紫蘭があちこちに  
不自由でも自由でもなく四面楚歌

先月号のお気に入り  
アレチノギクに道路使用許可  
アレチノギクっていつも何か言いたそうにしている感じ。 小野五郎

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

コストコのチーズケーキの日本海  
ちよつと大人なビーチサンダルちよつと内気  
黄身2つ生まれた朝のかけご飯  
ささやき声で光の道で歌つてた  
海風が言わしてしまうナクモンカ

先月号のお気に入り

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

耳朶の先のあたりの九月のムンク  
海老フライの尻尾食べる派なら赦す  
マーキングするのであれば白桃に  
案件その1、汗か涙か迷う件  
鶏もものコンフィほぼほぼ是非に及ばず

先月号のお気に入り  
貼りついているのは一反木綿だな  
いいえ、小泣きじじいです。砂かけお婆さま。 熊谷冬鼓

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

だめなものだめいつもの調子です  
それは大陸右を選んで助かった  
病院の待合室で待つスマホ  
夕空晴れておてごろな値段です  
ボクのだ名が転がつてゆくのです

先月号のお気に入り  
教科書通りにやったら詰まらない  
同感。その通り。 田久保亜蘭

まぎや【まぎこ・青森県青森市】

報復だルージユの色が暗すぎる  
空に雲スキップ上手にできました  
更衣室の中で膨らむ自尊心  
一日を終えて風鈴静かです  
自画像の鼻のあたりで散る桜

先月号のお気に入り  
食欲減退畑でトマト丸かじり  
笑いますね。楽しい絵です。トマト大好きです。 坂本清乃

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

横文字について行けないお年頃  
発音は自信があるの訛るけど  
謎めいております主語のない会話  
クレームは標準語うわさ話は方言  
よれていくカラダ口もとの元気

先月号のお気に入り  
言い負けて娘の世話になるいつか  
確実に近くなりましたね。。。 城後朱美

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

スタートラインからマシカクな息遣い  
常識の範囲越えると影が無い  
以下同文で括られくしゃみ止まらない  
いい人と言われ巴投げを食らう  
海と空交わる位置が始発駅

先月号のお気に入り

宮井いずみ【みやいずみ・大阪府大阪市】

お茶断ちか猫断ちまたは活字断ち  
すすり泣くのは七三のオットセイ  
せせらぎが故障してから眠れない  
回覧板からたちのぼる獣臭  
もも缶を開けたらどつといわし雲

先月号のお気に入り  
センチがぼつん鞆がぼつん 守田啓子  
点鐘の会の勉強会へ行き始めてたつた一年で墨作二郎氏が亡くなった時の悲しさを思い出しました。

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

梨一個列を出て行く一字空け  
不揃いの梨が集まる秋うらら  
銀色の数式故人と梨の数  
竜胆の青だな秋を呼んだのは  
歳時記を連れ込みアレをしませんか

先月号のお気に入り  
見栄じゃないちよっと私はいふりこぎ 瀧尻善英  
そっだったんですか・・・

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

AIにたつぷり愛を教えこむ  
鬼笑う大人の休日切符で青い森へ  
意地はって意地はって振り出しに戻る  
早送りすると季節コロコロ冬になる  
二重奏あなたの後ろ深い秋

先月号のお気に入り  
あみだくじハズレを引いてから砂漠 夏草ふぶき  
今年自治会の『副会長』くじで当たり、大砂漠の真ん中です。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

プーチンの首に鈴をつけるのは誰  
手を握る似たもの同士中口朝  
プーチンの寿命はあとどれくらい  
閻魔様早くプーチン呼んでくれ  
プーチンそつくりのチャップリンいれば

先月号のお気に入り  
愛でていた椅子がお尻にくっついた 夏草ふぶき  
同感です。暑くてお尻が椅子から離れなくなっていました。

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

背すじピン歩きなさいと影法師  
子に見せる背中しつかり磨かねば  
ありがとうこの温もりをラッピング  
いつもある明日より今日を生きましよう  
枯れ芒光りかがやいた時咲いた時

先月号のお気に入り  
母の愛に絡め取られて檻の中 村上あつこ  
皆さんも同感だと思います。母の愛の強さをしみじみと感じました。

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

秋深し本に呼ばれて酒に呼ばれて  
起きなさい私の中の小悪魔よ  
埋み火をそそのかしては知らんぷり  
風止んでアイスモナカを半分こ  
この街に気の合う友のいる限り

先月号のお気に入り

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

北斗星今夜は蟋蟀と見よう  
ひがな花褥に忘れられそうな  
放火する言の葉二つ三つは持つ  
襟足をなぞる不実な指がある  
今生のいよいよ重し虫袋は

先月号のお気に入り  
逝く日まで流れる川であるように 吉見恵子  
流れていたいものです。

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

ビールだぞビールのために働くにやん  
いつまでも暑くつていや厚くつて  
秋という詐欺師のようなお天気で  
冷風扇まあまあだったということ  
この夏は痛くなければエッグタルト

先月号のお気に入り  
ユウウツな朝だどうする×切り日  
坂本清乃  
今回はそうでした。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

洋梨の曲線までの彼岸かな  
バラの実に生きる証を閉じておく  
広辞苑開いて閉じて難破船  
雨不足育たないのは寛容さ  
もう一年風になったか雨になったか

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

バケツリレーで運ぶ「紅葉」1番  
斑抜けか腑抜けなのか見当つける  
ホロホロチョウのホロのひとつが香ばしい  
強除湿鎖骨にはリンパ液湖  
潜り戸は開けておきます雷神さま

先月号のお気に入り  
部屋中にもしもが散らかっているわ  
守田啓子  
私の部屋は「いいんじゃない」があちこちに(笑)

米山明日歌【よねやますか・静岡県長泉町】

そもそもが棒立ちになる夕まぐれ  
夕焼けの向こうはみんな昔です  
正論を聞きたくなくて飲む真水  
もう少し生きたくなくて毒をのむ  
一枝を得てから続く痛みあり

先月号のお気に入り  
この世仮の世あなたに出合ったためだけの  
北野岸柳  
岸柳さんに憧れて、おかげようきに入らせていただきました。  
した。この句に出合えて幸せです。

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

雲の上生きてきた町見えてくる  
坂の街杖より友の腕がいい  
旅の宿コンビニで買うミニカップ  
金の箱根回しをした誕生日  
墓の砂利草取りの日が遠くなる

先月号のお気に入り  
終わったと思うこれからだと思っ  
守田啓子  
いつもいたりきたりしています。

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

いつの日か乾く洗濯の干しっぱなし  
奇跡の寝ぐせ竜巻形を自撮りする  
切符買おうか切手買おうかホタテ貝  
ヴァイオリンの調べ全身に擦過傷  
シベリアの目覚めメタンが咳をする

先月号のお気に入り  
詰め放題百円でしたイボころり  
鳴海賢治  
イボころり。ポケットに詰め放題だったしりして。

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

曼珠沙華南海電車の胃の淵へ  
お好みならば口下手な箱にでも  
道化師は夕陽を見過ぎ酸化した  
秋明菊に躡り寄る天瓜粉  
院長の影がねばねばしています

先月号のお気に入り  
「コーヒーが苦い真昼を描いたのに  
宮井いずみ  
コーヒーと真昼の取り合わせに魅かれました。

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

帝国が夜霧の中へ泳ぎだす  
バラ戦争の仲裁に行く火食鳥  
沙羅双樹伸びる満天の星月夜  
バイオリンに擬態している種子島  
湯豆腐に御法度のアレが入ってる

先月号のお気に入り



### 金瀬達雄

【かなせたつお・富山県高岡市】

国境で子羊が実を奪い合う  
久しぶり世界夫人よまた会えた  
この頃はどこへ行つてもユダの風  
負け犬の気楽もあつたのに甥よ  
角張つて難解になる日本海

先月号の  
お気に入り

縁も円も影響薄し竹槍ニツポン  
泣けてきます。エ〜ンエ〜ン。

旅男

### 熊谷冬鼓

【くまがいとうこ・青森県青森市】

黒揚羽なんでなんでを繰り返す  
読みかけの文庫本から咳払い  
残された鉢植えの声聞いている  
ギンギシも言えなくなった兄のペダル  
返信不能 野ブドウの青紫

先月号の  
お気に入り

草一族の声が大きい  
声の大きい草一族つて…

ひとり静

### きさらぎ彼句吾

【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

殺風景な景色きみだけ見当たらぬ  
花びらむしり終えままごとは果てた  
声の湿度も笑みの温度も一字空け  
非正規だったんだ囁きもハグも  
プーチンかゼレンスキーか舐めてみる

先月号の  
お気に入り

この辺にモザイク入れる予定です  
この辺どころじゃなくなった：枯れ野

柳本恵子

### 斎藤泰子

【さいとうたいこ・秋田県大館市】

どなたかが貰う花束紅い花  
カーテンを開ける現実ならここに  
蝶々も私も苦い葉で育つ  
ちよūdoyい窪みだ想い出と独り  
隙間つてつめたいものが通るらし

先月号の  
お気に入り

神棚と仏壇好きのマリア様  
ふぶきさんの発想力にはいつも驚かされております。

夏草ふぶき

### 坂本清乃

【さかもときよの・青森県蓬田村】

ドーナツの穴にプーチン閉じ込める  
亡父からの軍手に書いた遺言状  
カサブタが取れた途端に蜘蛛が生え  
災いも恵も余白に置いている  
ティータイム軍手もバテル雑草地

先月号の  
お気に入り

### 笹田隆志

【ささだたかし・青森県青森市】

人生は紙に書くほど楽じゃない  
火星行き片道切符手に入れる  
満月にジャニーズハット被せます  
緞帳の志功の鯉は養殖魚  
脳天を笑い上戸がハイジャック

先月号の  
お気に入り

銀漢へ座礁くじらの50頭  
これぞ特選、されど秀逸！

宮井いずみ

### むさし

【むさし・青森県蓬田村】

ヒマワリ畑で戦争するなケモノたち  
トンカツの「ンカ」のあたりに味が無い  
モナリザの握りしめてる熱帯夜  
青鬼のヒカガミ辺りの禁猟区  
まず最初私を捨てに行きましよう

無人駅は自由な発表の場です。  
未発表作品5句をお寄せください。  
また、お手元の最新号から  
お好きな作品とそれに対する  
簡単なコメントもお寄せください。

スマホやタブレットで投句する↓



# 深艘心理

終わったと思うこれからだと思う

守田啓子

(会員雑詠集 無人駅9月号より)

永遠なんてこの世には存在しない。今ある幸せや不幸も必ず終わる時がくる。自分が当たり前だと思っている「今」もいつかは音を立てて崩れ落ちてゆく。そう知ってはいても、どこかでこの幸せな時は永遠だと思ってしまう。だが、その終わりこそまた新たな始まりでもある。と、掲句は訴えている。しかし、何が終わって何が始まるうとしているのかは全く言ってはいない。恋愛なのか、人生なのか、はたまた大事にしていたものが壊れたのか、季節の移り変わりなのか。そのヒントさえも言ってはいない。その分深いのか、読者に委ねきっている分ズルイのか、ま、好きにとればいい。なのだろう。アッハッハ。

ここ2〜3日の間に続け様に訃報があった。一人は高校

同期で母親同士も女学校の同級生という奇縁のある大親友。もう一人は何度も川柳合宿でお世話になった秋田の柳友の奥様。どちらもパーキンソン病を患っていた。私の妻も現在同病で寝たきりでもあるし、TVの速報で、あの「昴」や「サライ」で有名な谷村新司も亡くなったという。うーむ。眠れない。それやこれやのバタバタで実はこの原稿も締切を一日過ぎてている。ただただご冥福をお祈りするしかない。

懸命に原稿を書いていると、隣で寝ていた妻が寝言で私の名前を呟きながら「ふっふっふ」と笑った。どんな夢を見ているのだろうか。その微笑んでいる寝顔を見ていたらなんだか少し救われた。

## こめかみに

10月7日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(13名)

葉閑女・熊谷冬鼓・むさし・原口健二・Sin・きさらぎ彼句吾・渡邊こあき・奈良一艘・木村美映・夏草ふぶき・笹田隆志・小野五郎・守田啓子

▼投句者(20名)

斎藤泰子・吉松澄子・柳本恵子・米山明日歌・戎踊兵・金瀬達雄・旅男・安藤なみ・宮井いずみ・城後朱美・須藤しんのすけ・鳴海賢治・村上あつこ・岩根彰子・田中薫・芝岡かんえもん・村井規子・まみどり・郷田みや・坂本清乃

おかじょうき川柳社

10月例会

席題 『みかん』

青森県青森市 葉 閑女選

【佳作】

義勇兵に応募してきた夏みかん  
 「はじめまして」と参道の扉からミカン  
 生まれてみたらミカンの皮が恨めしい  
 黄色い手は冬の風物詩であった  
 内実を暴かれたみかんの輪切り  
 患うとオレンジ色になる蛙  
 俄雨みかんひと山買いました  
 ミサイルとみかんは御一人様壹個まで  
 あの世のミカンこの世のみかんロダンの手

小野五郎  
 笹田隆志  
 笹田隆志  
 木村美映  
 原口健二  
 夏草ふぶき  
 渡邊こあき  
 むさし  
 むさし

みかん一個心の穴に埋めてくれ  
 夏蜜柑の虚言癖から脱皮する  
 空にもたれてピカソしている夏みかん

涙跡がすこし付いてたミカン缶  
 火星人が土産に買った柚子胡椒  
 幽体離脱みかんの花が咲いている  
 守田啓子  
 笹田隆志  
 むさし  
 奈良一艘  
 夏草ふぶき

【秀逸】

リカちゃんの小指はきつと蜜柑味  
 みかん剥く心ぎのうに置いたまま  
 革命がはじまりそうなみかんの木  
 守田啓子  
 熊谷冬鼓  
 奈良一艘

【特選】

一家団欒どどんと蜜柑ありました  
 熊谷冬鼓

昭和はそんな暖かい時代でした。

席題 『みかん』

青森県青森市 熊谷冬鼓選

【佳作】

患うとオレンジ色になる蛙  
 イグアノドンが好きな未完成なみかん  
 火星人が土産に買った柚子胡椒  
 「はじめまして」と参道の扉からミカン  
 あの世のミカンこの世のみかんロダンの手  
 夏蜜柑の虚言癖から脱皮する  
 涙跡がすこし付いてたミカン缶  
 オレンジじゃないと分かってから不眠  
 ミサイルとみかんは御一人様壹個まで

夏草ふぶき  
 夏草ふぶき  
 夏草ふぶき  
 笹田隆志  
 むさし  
 笹田隆志  
 奈良一艘  
 きさらぎ彼句吾  
 むさし

俄雨みかんひと山買いました  
 渡邊こあき

リカちゃんの小指はきつと蜜柑味  
 みかん一個心の穴に埋めてくれ  
 守田啓子  
 奈良一艘

オレンジを抱いたら瓶に戻ります  
 革命がはじまりそうなみかんの木  
 守田啓子  
 奈良一艘

フルーツバスケットの添えもので終る  
 きさらぎ彼句吾

【秀逸】

義勇兵に応募してきた夏みかん  
 幽体離脱みかんの花が咲いている  
 きゅんに出遇うまで素っぴんのみかん  
 小野五郎  
 小野五郎  
 きさらぎ彼句吾

【特選】

死亡届をみかんの汁で書いておく  
 S i n

『死を認めたくない思いをみかんの炙り出しに託した。』

### 宿題『敷く』

青森県弘前市 きさらぎ彼句吾選

【佳作】  
 尻に敷かれた方が自由に生きられる  
 プーチンでもいいから鍋敷き用意して  
 妻の布団にもなかつたように敷く  
 老いるとは低反発のマットレス  
 つまらないものだとお花敷きつめて  
 寝転ぶならラの音敷いておきますね  
 念のため敷いておきますバーコード  
 花びらを敷き詰めておくお仕置き場  
 こぼれ萩津波警報発令中  
 秋思かな尻に敷かれているような  
 畳の縁は貨物列車が通ります  
 お布団どうぞお悩みならどうぞ  
 床を敷く流れるようによく撫でる  
 「頑張れ」とプリントされているシート

城後朱美  
S i n  
芝岡かんえもん  
鳴海賢治  
郷田みや  
郷田みや  
まみどり  
葉 閑女  
吉松澄子  
む さ し  
斎藤泰子  
金瀬達雄  
む さ し

敷物にするには硬い化けの皮  
 言い訳を敷き詰めておくお玄関  
 柩には好きな言葉を敷き詰めて  
 座布団を探す難民のフクラハギ  
 赤毛氈敷いてデゴイチ侍らせる  
 お座敷の南東角に地雷原

宮井いずみ  
斎藤泰子  
吉松澄子  
小野五郎  
笹田隆志  
小野五郎

【五客】  
 おしらさま呼ぶ鹿せんべいを敷きつめて  
 あの世との間に敷いている布団  
 薔薇敷いた話しばかりを聞かされる  
 争いに繋がるルールを敷いている  
 人型のつらいがついた敷布団

宮井いずみ  
む さ し  
米山明日歌  
原口健二  
芝岡かんえもん

【人位】  
 夜の嘘ずいぶん吸った敷き布団

米山明日歌

【地位】  
 石畳ですか積もった嘘ですか

宮井いずみ

【天位】  
 ニンゲンを解く銀河を敷きつめて

奈良 一艘

※それで解けるのかなプーチンも？

### 宿題『化』

青森県青森市 渡邊こあき選

【佳作】  
 危ないなあ化学兵器を貯金して  
 銀色になろうなろうと生きている  
 温暖化砂漠化少子化液状化  
 ガンモドキ大統領に化けている  
 CTも見落としていた化けの皮  
 化野の悲鳴「値上げはやめとくれ」  
 変化球覚えゆうゆう秋の暮れ  
 さよならは風とこころの化合物  
 妻を変えるトリセツ状はいりません  
 目玉おやじの手配写真はオレだった  
 化野に行きませんかと誘われる  
 蝶の羽化 早口言葉を5回言う  
 育休明け道化の衣装整える  
 擬態でも良ければひと夜ハモろうか

小野五郎  
守田啓子  
奈良 一艘  
小野五郎  
葉 閑女  
木村美映  
宮井いずみ  
宮井いずみ  
笹田隆志  
奈良 一艘  
吉松澄子  
熊谷冬鼓  
葉 閑女  
きさらぎ彼句吾

どの部屋も仮面だらけで眠れない  
 AIに相談いい人に化ける  
 文化の日ちようど燃えないプラゴミの日  
 擬きだとバレないように嘘塗す  
 化けきるまで此の世の息が続かない  
 プロフィール変身願望の欄に○

む さ し  
吉松澄子  
柳本恵子  
きさらぎ彼句吾  
きさらぎ彼句吾  
柳本恵子

【五客】  
 たったいま化け物になりました俺  
 化けないように頑張っているのです  
 酔う前に河童に化けてみせましょう  
 蛙化現象発生中なのだ  
 老化とは違う寒さのある岸边

芝岡かんえもん  
田中 薫  
む さ し  
田中 薫  
米山明日歌

【人位】  
 「愛」の字がみんな文字化けしてしまう  
 【地位】  
 劣化した襖に境界知らされる

む さ し  
熊谷冬鼓

【天位】  
 薄くって涼しい化けの皮ですよ

斎藤泰子

※ そんな化けの皮だったらかぶってみたい  
 いです。

# 宿題『自由詠』

青森県青森市 夏草ふぶき選

## 【佳作】

それなりの覚悟があつて飛び込めぬ  
 血の通わぬパンツ毎日干している  
 わたくしと私のほとり二周半  
 割り増しの料金でみる秋の夢  
 戸惑いもどうどう巡りもガンジスへ  
 柚子胡椒くらいの返事なら許す  
 姥捨て山大字迷路字迷路  
 裏庭でまつたりしてる狙撃兵  
 ばあちゃんのうち紙の中の鼈甲飴  
 酔芙蓉はなせばながくなる話  
 出る杭になるかも話は短かめに  
 歩けそうな距離を選んでしまう癖  
 のど飴がとけたら「ゴメン」云うつもり  
 また犬の飯 忠犬が吠いた

まみどり  
 芝岡かんえもん  
 米山明日歌  
 米山明日歌  
 奈良一艘  
 まみどり  
 むさし  
 小野五郎  
 柳本恵子  
 柳本恵子  
 柳本恵子  
 熊谷冬鼓  
 村井規子  
 米山明日歌  
 旅 男

ハグは無理いがぐりなのは内緒です  
 差し色にビビッドな嘘さし上げる  
 アルプスよ海にこぼすな薄めるな  
 整理券配る戦場行きのバス  
 啖呵吐ききつてパリつとしたシート  
 三半規管に目詰まりしてるトリチウム

## 【五客】

ふわり嘘つく十月の乾燥機  
 夕方がだんだんややこしくなった  
 ブルドッグソース斜めから振る話し  
 サキュバスの顔で前髪2ミリ切る  
 戦線離脱でモンシロチョウが裁かれる

熊谷冬鼓  
 きさらぎ彼句吾  
 須藤しんのすけ  
 原口健二  
 守田啓子  
 斎藤泰子  
 岩根彰子  
 須藤しんのすけ  
 小野五郎  
 守田啓子  
 渡邊こあき  
 むさし

【天位】  
 こめかみに濁点打ったまま眠る  
 1 眠れぬ夜ってこんな感じかと…。

## 参加者募集

# 川柳吟行会「ぼ」課題『振る』

9月ネット句会の題は「振る」だった。  
 難しい題だったかも知れない。振る事は身近に  
 いっぱいあるのに、特に意識していない行為であ  
 る。

具体的な行動だけでなく「人生を棒に振る」「恋  
 人を振る」と言うような言い方もある。それぞれが  
 大きく心揺すられた「振る」をことばにして新鮮な  
 句が書けたのではと思う。

このあとは志功展のリアル句会がある。句会はや  
 はり顔を合せての意見交換が楽しみである。(さち)

## 【9点】特×4・佳×1

きつかけは振袖火事でございます 笹田かなえ  
 【彰子】浄瑠璃の「八百屋お七」が映像として眼前で動

いた。下五の「ございましょう」に納得がいく。【善江】  
 二日間に渡り、江戸を焼き尽くした明暦の大火が題材の  
 ドラマチックな作品です。しばし、江戸にタイムスリッ  
 プいたしました。【五郎】ユニークな発想。大いに納得。【し  
 んのすけ】振袖火事のまことしやかな話と、下五のよそ  
 よそしきに引き込まれます。今後の展開、大いに期待し  
 ております。【文音】命を振るきつかけは誰にもあるの  
 だと思えます。

## 【6点】特×2・佳×2

手を振って天国行きのバスに乗る 笹田隆志  
 【規子】人生の最期は潔くこうありたい。【ふぶき】手  
 振るだけで天国行きのバスが停まってくれるなんて楽し  
 い発想だと思いました。きつといい人だからですね。【吉  
 見恵子】こんなノリであちらに行けたらハッピーですね。  
 【啓子】理想ですね。ぴんぴんころりよりもいいなあ

【6点】特×1・佳×4  
上品に振ってる嘘つきの手

城後朱美

【州花】他人の右手と読んだけど。これ自分の右手なのですね。【いずみ】嘘つきの手は器用ですべすべしているのでしょうか。【まあこ】なるほど お上品な右手ですね。【冬鼓】嘘つきと言いつけるのは自分の手だから。見えない左手は拳かも。【柳本恵子】嘘も方便。大人は皆、自分にも、人にも嘘を…。

【5点】特×2・佳×1

御籤筒しゃかししゃか秋のひとり旅 宮井いずみ

【こあき】しゃかししゃかとおみくじ筒を振る音が聞こえてきました。【さち】いろいろなことを振り切って秋空の中ひとり旅。さわやかな風や雲をひとりじめして幸せ満喫。羨ましい。【彰子】筒のしゃかししゃか、ひとり旅、小編である。

【5点】特×1・佳×3

振り出しにひっそり戻る病原体 小野五郎

【文音】何事も「ひっそり」が恐い世の中だと思います。【善江】「病原体」が効いています。【さち】ひっそりならいいのですが凶暴になっていて怖いのです。【ふぶき】もう

になります。【しんのすけ】分かっちゃいるけどやっちゃうんだよねえ。

【3点】特×1・佳×1

トー横で振る縦の首横の首 須藤しんのすけ

【いずみ】居場所を求めてトー横に集まることもたち。しかしここも安全ではない。「縦の首横の首」の措辞がうまい。【こあき】若いころ渋谷の東急東横店で買い物をしたことを思い出しました。

手を振れば手を振り返す彼岸花 吉見恵子

【朱美】今はもう亡くなってしまう大切な人を思い出す。手を振れば、きつと答えてくれると信じてる。【啓子】笑顔には笑顔が返ってくるはず。故人には毎日手を合わせてます。

振り切った36°Cのサバイバル 高木まあこ

【吉見恵子】実感句ですね。青森の人間にとっては通常考えられない温度。【文音】そうです。今年の猛暑は生き残ることでした。

【3点】佳×3

終章は魚に 私に振るタクト 吉田州花

【善江】納得の上手い作品です。【冬鼓】終章に魚を選ぶ

安心と油断してるとこんなことになっちゃうかも、怖いですね。

善人がするりと抜ける灰通し 夏草ふぶき

【まあこ】線香立ての灰を灰通しにかけた時のきれいな灰を善人とは…作者の灰通しをしている姿が浮かびます。【隆志】眠る前に灰通しを使って熾をしまった記憶が甦りました。【かなえ】「灰通し」が上手い。で、抜けたのは本当に善人？（笑）【しんのすけ】「善人」「するり」の語句選択が秀逸です。

【4点】特×2

トリチウム澱まぬように振る尾びれ 滋野さち

【啓子】これからの魚はそういう理由で尾鰭を振ることになるんですね。ガッテン！！【冬鼓】基準値以下に薄めたとして、あの大量のタンクの分を流し続ける。小さな海の生物に全く影響はないと言いつけるのか。

【4点】特×1・佳×2

「シヨ」振るちよつとやそつとじゃ変われない 熊谷冬鼓

【柳本恵子】変身願望は誰よりもあると思うが、何をしても変わらない自分と、また今日を過ごしている。【州花】そうです変れないんです。変れるならもっと粋な女

とはユニーク。魚になったら何しましょ。【隆志】人生の最期はサカナになりなさい、と神の啓示がおりた。

【2点】特×1

賽子と旗を横目に生き枯野 金瀬達雄

【隆志】ナトーカロシアかあと運を天にまかせ、国旗をまもるために、ウクライナの人はいままさに枯野のなかを生きています。

いやいやをするさび色のクルス 岩根彰子

【達雄】クルスも疲れてもう嫌なのだろう。同じクルスを首に掛けて戦っているのでは？

友の振るつげ義春へ手をかざす 福田文音

【かなえ】学生運動やアングラ芸術…眩しかったあの時代。でもその眩しさを遮るように手を翳した自分がいた。

【2点】佳×2

応えてはくれない君に振る両手 渡邊こあき

【規子】青春そのもの。応えてもらえなくても腐らない事が大切。【ふぶき】応えないとわかっていても両手を振ってしまう切ない気持ちが伝わります。

案山子にも手を振りなさいサボらずに 城後朱美

【州花】かかしに振ったら鴉にも振るのですか。【五郎】辛口のユーモアが独特。

再発酵するかも没句に塩を振る 村井規子

【こあき】塩がいいのか、砂糖がいいのか。【まあこ】没句に塩とは面白い！

侵略にタイギとルビを振ったでしょ 滋野さち

【かなえ】ロシアの悪行をまさにズバリと言いついてる。【柳本恵子】一日も早く侵略戦争が終わるますように。

【丁点】佳×1

振り捨てて押し花になるつもりです 小野善江

戦争へ向う旗など振るものか 吉見恵子

ヒマワリの首横に振る反戦歌 守田啓子

人生は棒で振るほど楽じゃない 笹田隆志

助けてと両手で叫ぶ・届かない 熊谷冬鼓

蝉時雨 裸になつたきな粉棒 夏草ふぶき

尻尾振る度に鎖を増やす雄 金瀬達雄

よく振って人を見えなくするクスリ 小野善江

もう一度サイコロふって決める明日 柳本恵子

振り替えて振り替えられてきょうも晴れ 守田啓子

## 十和田たてがみ川柳会九月句会

○日時 9月16日(土)

○会場 十和田労働福祉会館

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・斉藤蛙井・佐藤まさあき・瀧尻善英・福田芳記・村上昌子・高田幸柳

○投句者 磯島雅男・城後朱美

■席題 『覗く』 木村奈生美 選

【平抜き】

レストラン隣のメニュー見て決める 高田 幸柳

開け放し覗きやあちらも覗いてた 村上 昌子

雲間からのぞくな日差し暑くなる 福田 芳記

通帳をこっそり覗き溜息す 久保あざみ

家計簿を覗いて妻の苦労知り 瀧尻 善英

谷底を覗きバンジーパスをする 佐藤まさあき

お目当ての夜店をのぞく家族連れ 福田 芳記

子の寝顔覗けば明日へ湧くパワー 瀧尻 善英

【秀 逸】

恐怖症のぞいてみたい深い谷 福田 芳記

## 『9月吟行会後記』

家の裏通りに棟方志功さんの実家の鍛冶屋がありました。私は一度だけ志功さんに会ったことがあります。今年のように暑い夏の日、親友で貼絵の山下清さんと一緒にねぶた祭で帰省していた志功さんから母校の小学校の講堂で版画の手ほどきを受けました。

それから62年、青森県立美術館と棟方志功記念館で『棟方志功生誕120年展』が開催されました。そこで川柳吟行会「ぼ」の9月吟行会は県立美術館の「志功展」としました。各自が都合のいい日や時間に吟行することとし、合評会は青森駅前のアウガで16日の16時からとしました。私は当日昼過ぎに会場に向かいました。会期が迫っていたせいか多くの来場者で込み合っていました。作品数もとても多く2時間の吟行ではとても回り切れず、圧倒されて会場を後にしました。

アウガでの合評会の参加者は10人。それぞれ3句投句し、特選1、佳作2句を選句し、約2時間半なごやかに、かつ厳しく合評し合いました。出句をきっかけに志功は野心家だったか、彫る時のハチマキは書き損じの紙をこよりにしたものだとか、おもだか忌の謂れとか話は大いに盛り上がりました。(隆志)

覗き見に試験監督光らす目 佐藤まさあき

【特 選】

ニンゲンの裏をこっそり覗く癖 瀧尻 善英

■席題 『覗く』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

生き抜いて来た納棺の母親く 木村奈生美

雲間からのぞくな日差し暑くなる 福田 芳記

覗き見に試験監督光らす目 佐藤まさあき

通帳をこっそり覗き溜息す 久保あざみ

覗かれる不覚に有った落とし穴 木村奈生美

隙間風だけが覗いたあの秘密 木村奈生美

お目当ての夜店をのぞく家族連れ 福田 芳記

レストラン隣のメニュー見て決める 高田 幸柳

【秀 逸】

谷底を覗きバンジーパスをする 佐藤まさあき

天国を覗いてみたら満員だ 斉藤 蛙井

【特 選】

胸元に光る寶石チラリ見せ 高田 幸柳

■宿題『脳』

久保あざみ 選

【平抜き】

毎日がお祭りマンボこの頭  
 村 上 昌子  
 忘れたい過去が脳裏から消えず  
 木村奈生美  
 脳トレにフル回転の句を起こす  
 磯 島 雅男  
 使わない脳が時々クシャミする  
 城 後 朱美  
 ボクの脳右脳・左脳働かず  
 佐藤まさあき  
 聴く力どうなったのか首脳椅子  
 磯 島 雅男  
 川柳の森で脳味噌補給する  
 木村奈生美  
 脳みそよ足腰痛むががんばれよ  
 齊 藤 蛙井  
 認知防止へ 川柳というサプリ  
 瀧 尻 善英  
 脳でなく身体で学べ故父の言  
 齊 藤 蛙井  
 脳トレをし過ぎた朝は夢うつつ  
 高 田 幸柳  
 【秀逸】  
 顔じやなく脳に欲しいな深いシワ  
 福 田 芳記  
 まじめな性格が左脳の邪魔をする  
 城 後 朱美  
 【特選】  
 母の脳 残念ながら消えた僕  
 瀧 尻 善英

■宿題『農業』

齊藤 蛙井 選

【平抜き】

種苗法自然哀れぬ金儲け  
 村 上 昌子  
 中村医師水引き緑地国づくり  
 福 田 芳記  
 農に生き大地の恵み感謝する  
 佐藤まさあき  
 草が主空き家同然休耕地  
 福 田 芳記  
 道の駅取れたて野菜地元なら  
 久保あざみ  
 農業入門まずは草取りから  
 城 後 朱美  
 直売所 土の恵みが並ぶ棚  
 瀧 尻 善英  
 揺るぎない農夫の自負へ棚田の美  
 瀧 尻 善英  
 取り立ての農作物に汗の自負  
 木村奈生美  
 まねごとにも収穫うれし我が畑  
 福 田 芳記  
 跡継ぎが無くて今日も田を廻る  
 佐藤まさあき  
 【秀逸】  
 晩年は自給自足で共白髪  
 高 田 幸柳  
 農民をまず守つての自給率  
 村 上 昌子  
 【特選】  
 出来秋へ土と会話を欠かせない  
 高 田 幸柳

■宿題『濃厚』

互選

①濃厚に愛を注いで呉れた母 木村奈生美  
 ①洋上の風力 ワイロ濃厚だ 久保あざみ  
 ①もぐもぐと食べる濃い牛乳だもの 瀧 尻 善英  
 ①濃厚なミサイル餓死者出すトップ 磯 島 雅男  
 ②濃厚でないが仲良く妻といる 齊 藤 蛙井  
 ③逢いに行く心で紅を強く引く 佐藤まさあき  
 ③家族との濃い思い出が背中に棲む 村 上 昌子  
 ④濃く淹れたお茶で煩惱整える 高 田 幸柳

◆十和田たてがみ川柳会十一月句会案内◆

【時】11月18日(土) 午前10時から 【所】十和田労働  
 福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『ひよっこり』高田幸  
 柳選／『暇』木村奈生美選 【互選】(一句詠)『開く』  
 当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入) 【席題】一  
 題(三句詠・共選)／選者は、瀧尻善英ほか出席者か  
 ら一名 【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72  
 高田幸柳宛

「チャレンジ川柳！  
 むさし流！」のブ  
 ログはこちら

「チャレンジ川柳！むさし流！」のブログはこちら

高田幸柳



## おかじょうき川柳社ウェブサイトからの投句について

現在、おかじょうき川柳社のウェブサイトは、サーバー移転のため、一部サービスが使用できない状況となっております。

みなさんがよく使用する「投句ページ」もすべて Google フォームへ移行して対応しています。

ただ、投句された方から、「画像認証がうまくいかなくて投句できない」という声が多く寄せられています。これは、ロボットによる大量投稿を防ぐためのセキュリティとして行われています。

画像認証が出てくる人と出ない人がいますので、下記の方法をいくつか試してください。

### ①「Google Chrome」でウェブサイトを開く。

Android のスマホだと標準で「Google Chrome」となっているため「ロボットではありません」のチェックで済むようですが、iPhone は標準が「Safari」になっているため、画像認証が出てくるようです。**iPhone の方は、右の QR コードから「Google Chrome」をインストール**してみてください。



### ② Google アカウントを作成する

iPhone の「Safari」を使用している場合、**Google アカウントを作成してログイン**すれば、画像認証は出てこなくなります。Google アカウントを作成しておけば、いろいろなサービスがありますので、作ってみてはいかがでしょうか。



### ③画像認証を突破する

画像認証は右の例でいうと、9つのタイルから自動車が映り込んでいるものを**すべて選択**します。なかには、ギリギリに映り込んでいるものもありますので、注意が必要です。

ただ、**間違えても全然大丈夫**なので、それらしいものを選択して「確認」を何度か押ししてみれば突破できるはずです。



わかりにくい問題だった場合、ここで問題を変えれます

### □ 2023.11.12 黒石川柳大会

日時：2023/11/12(日)10時受付開始(席題発表) 場所：スポカライン黒石2F大会議室(電話0172-53-8111)(ユンバース黒石駅前店隣) 会費：2,000円(発表誌・お茶) 弁当はありません、昼食は各自でお願いします。◆事前投句「龍」(1句詠・欠席投句拝辞) 全員選 10月30日(月)消印有効・清記して全員選 ◆宿題(2句詠)「炎」千島鉄男選/宿題「ピッタリ」沢田百合子選/宿題「帽子」むさし選 ◆席題(2句詠)「 」2人共選・選者当日発表 宿題、席題の投句締切り：11時30分 \*開会までの間に各自で昼食をとって下さるようお願いいたします!開会は12時40分(懇親会はありませんのでご了承ください) ◆問い合わせと事前投句のあて先 黒石川柳社 三浦蒼鬼 〒036-0533 黒石市二双子字十川46-2 携帯090-7933-6064

### □ 2024.01.21 第88回新春川柳句会

【日時】令和6年1月21日(日) 席題発表午前10時(9時受付開始)【会場】弘前プラザホテル(弘前市代官町101-1 Tel 0172-35-0345 弘前駅より10分)【会費】5,000円【宿題と選者】(各題2句詠・共選)投句拝辞\*採点 宿題・席題とも秀句3句=2点・佳作30句=1点『鍋』菊池京・三浦蒼鬼/『平凡』沢田百合子・むさし/『素晴らしい』北山まみどり・野沢省悟/『ガチャガチャ』熊谷冬鼓・長谷川酔月/『急ぐ』滋野さち・渡辺松風【席題と選者】(各題2句詠・共選)『 』岩崎真里子・田沢恒坊/『 』笹田かなえ・佐藤ぶんじ【我洲杯】(1句詠・5人共選)\*採点 秀句1句=2点・佳作15句=1点『旗』吉見恵子・工藤まさひろ・白川莫・佐藤雅秀・太田久【賞】宿・席題合点により1位に紗光杯、2位に寿久杯、他20位まで/我洲杯3位まで 宿泊希望の方は1月15日までに 〒036-8227 弘前市桔梗野3-3-3 千島鉄男へ Tel 0172-34-3392【主催】弘前川柳社【後援】弘前文芸協会

### □ 2024.01.15 第12回卑弥呼の里誌上川柳大会

【投句締切】令和6年1月15日(月)消印有効【課題・選者】(各題2句・投句用紙ありコピー可)『自由吟』浪越靖政・大西泰世/『まさか』中前棋人・樋口由紀子/『ふわり』平川柳・鈴木順子/『積む』もりともみち・木本朱夏/『色』横尾信雄・赤松ますみ【参加費】1000円(切手不可)発表誌呈(令和6年4月初旬発送予定)【投句先】〒842-0103 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲2426-2 卑弥呼の里川柳会 真島久美子宛 電話・FAX 0952-52-1061【賞】各題特選1句 有田焼/各題佳作5句 図書券(その他サプライズ賞)【主催】卑弥呼の里川柳会

■会費拝受【9月受付分】

渡邊こあき（青森市）／まみどり（黒石市）

■おかげょうき川柳社会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかげょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

（〒039-3502 青森市久栗坂字浜田 87-2）

終着駅 Sin

◆お詫び。おかげょうき川柳社のウェブサイトの一部が現在、使用できなくなっています。原因としては、利用していたウェブサーバーの会社を買収されたことによって、サーバーが移転し、いろいろと細かい仕様が変わったため、これまでのプログラムが動かなくなったというのが原因です。修復を試みていますが、自分でよく作ったと思うくらい複雑なコードで（笑）、一から作り直した方が早いんじゃないかと思うくらい状態で、隙間時間にコツコツ直せるものでもなく、休日にガッツリと時間を作って修復する必要があり、完全修復には数ヶ月かかると見込まれます（汗）ただ、投句機能だけは利用できる状態にはしていますので、ご利用ください。投句時の画像認証でお困りの方は、前ページに解消する方法をいくつか書いておきましたので、お試しください。ご迷惑をおかけ

します◆さて、少し早いが、来年の川柳ステーションのゲストに暮田真名さん（東京）をお呼びすることに決定した。本人から「青森は修学旅行以来なので楽しみです」とのコメントをいただいている。暮田真名さんは26才で新進気鋭の作家。一躍有名となった「いけにえにフリルがあって恥ずかしい」など掲載された川柳句集「ふりよの星」は絶賛発売中。Amazonでも買えるので、ぜひ◆川柳ステーションにゲストを呼ぶのはもう何年ぶりだろう。ようやく、元に戻ったのか、はたまた新たなフェーズへ進化したのか、わからないが、ことデジタルで苦労したこのコロナ禍の日本。今後、未知なる感染症の出現がまたあっても、おかげょうき川柳社の句会は止まることのないようになっている。川柳忘年会の私の選では句箋をまったく使わずに投句・選・披講まで行う実験を試みたいと思っている◆Sin

おかげょうき川柳社 作品募集案内

□ 2023.11.20 川柳忘年会 2023 事前投句

【投句締切り】2023.11.20【事前投句】（各3句・欠席投句拝辞）『北』奈良一艘 選 / 『岸』熊谷冬鼓 選 / 『自由詠』むさし 選【投句方法】<https://forms.gle/CWuPatingjJriMbF7>へアクセス、又は moriko@okajoki.com(守田啓子)へ直接メール



□ 2023.11.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句（1月号分）

【締切】11月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】1/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



□ 2023.12.02 川柳忘年会 2023

【日時】2023.12.2（土）15時～18時【会費】5,000円【場所】「らいぶすてえじ ジパング」（青森市本町5-4-25 電話017-722-4019）【宿題】（事前投句・各3句・投句締切り11/20・欠席投句拝辞）『北』奈良一艘 選 / 『岸』熊谷冬鼓 選 / 『自由詠』むさし 選【投句方法】<https://forms.gle/CWuPatingjJriMbF7>へアクセス、又は moriko@okajoki.com(守田啓子)へ直接メール【席題】『 』Sin 選【問合せ】熊谷冬鼓 Tel/Fax.017-752-3759 \*今回は句箋を使わない句会を設定し、宿題は事前投句としました。ご参加の方は事前投句をお忘れなく！！



□ 2023.12.13 「川柳吟行会 ぼ」12月句会

【投句締切】12月13日（第2水曜日）【題・投句数】『踊る』2句【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 \*それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方であれば、おかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。



